

第49回町田市消費生活展「まちだくらしフェア2025」 9/26・27 に開催いたしました。

運営協議会は、『日本の食を守る！～地産地消・食品ロス削減～』をテーマに、パネル展示をしました。

◆地産地消

世界的な気候変動などの影響で、食料品の供給に対する不安が生れています。その中で、日本の食料自給率はカロリーベースで38%を何とか維持している状況です。少しでも自給率を上げる必要を感じます。

自給率を上げる行動の一つが「地産地消」です。地元の新鮮な農産物が食べられる上、輸送に使われるガソリンなどの消費量が減りCO2削減に繋がりSDGSに、ダブルで貢献できます。



まず、身近な行動で地元野菜の生産者を消費で応援し地元の農業を守りたいと考え、農家さん設置の直売所・ロッカー型・畑のそばの卓上などの販売の様子をパネルで紹介しました。

*来場の皆様から

「直売所の野菜は新鮮なので買っています。自給率アップやCO2削減になるとは嬉しい情報です」
「市役所などの朝市を楽しんでいます」
「これから、散歩を兼ねて探してみます」などのお話しが伺えました。

◆食品ロス削減

「食品ロス」とは、本来食べられるのに廃棄されていることを言います。

削減目標値は、決められています。以前、多かった事業系の食品ロスは削減目標値を達成しています

が、家庭系の食品ロス削減は微減に留まっています。私達も、意識・実践して早期に食品ロスの削減目標到達に向かいたいと考え、皆様に「保存の工夫」「買い物の工夫」「賞味期限」について伺う、パネルを作成しました。



皆様が意識・実践している項目にシールで答えを、工夫をメモに書いて頂き42名の方々が教えてくださいました。沢山の工夫の中から、その一部をご紹介します。

☆保存の工夫をしている 101名(シール解答)

◎冷凍の工夫

- ・野菜はカットやすりおろしてから、肉や魚は調理してから冷凍等
- ・冷凍した日付を忘れずに記入する。

◎その他の保存の工夫

- ・野菜などは新聞紙で包む・干す・塩漬けにする。
- ・冷蔵庫内のそれぞれの温度に合わせた棚で保存。

☆買い物の工夫をしている 102人(シール解答)

- ・余分な物は買わない、買いためをしない。
- ・リストを作って買い物をする。
- ・調味料は、少量サイズを買う。
- ・冷蔵庫を小さくした。

☆賞味期限はフェアのクイズラリーで「賞味期限を過ぎたら、食べられない」を出題、○か×で答えて頂き「×」が正解、皆さん正解でした。

来場者参加型のパネルで、皆様に運営委員の思いを直接お伝えでき、皆様から頂いた工夫もとても参考になりました。ご参加有難うございました

(文責 広報部)

相談室



気をつけて！
通信販売の
ダークパターン

インターネット通販で、注文受付終了までの残り時間がカウントダウンタイマーで表示され、焦って購入してしまったというような経験はありませんか。このように、利用者の判断を誤らせたり、行動を意図的に操作することをダークパターンと呼んでいます。消費生活センターに寄せられたダークパターンに関わる相談は、定期購入の場合がほとんどです。

《 事例 》

SNSの広告で、いつでも解約が可能な定期購入の美容液が、初回価格1980円で販売していることを知った。最終確認画面もよく読んだ上で注文した。契約後すぐに2回目からの解約の手続をしたら、4回購入が条件の定期購入なので途中で解約はできないとのメールがきた。スクリーンショットで残しておいた最終確認画面を見直してもそのような記載はない。納得できない。(30代)

《アドバイス》

センターから販売業者に確認したところ、注文後にお得なクーポンの利用を勧めるページに移動し、縛りのある定期購入に契約変更になるにもかかわらず誤認させるような表示をしていたとわかりました。初回のみでの解約を申し出ると、定価との差額分として高額な請求がありました。相談者はクーポンや表示については全く記憶にないとのことで、解決にはいたりませんでした。

ダークパターンには様々な例があります。

・必要であると偽りユーザー登録や個人情報の開示を強制する
・返金条件など重要な情報を小さい字

でわかりづらくして視覚的に不明瞭にする
・事業者の望む選択肢（値段の高い徳用サイズや定期お届けコース）が事前に選択されている
・大幅な値下げを強調しているが通常価格で販売していたかどうかの実績が不明
・消費者の明確な同意を得ずに契約を自動更新するなどです。ダークパターンにだまされないためには、具体的な事例を知り、契約する前に落ち着いて考え、冷静に対応するように心がけることが重要です。ダークパターンに惑わされ契約した場合でも、解約するためには、事業者との話し合いが必要となります。契約トラブルは、消費生活センターにご相談ください。

リチウムイオン電池の膨張、発煙、発火に注意

リチウムイオン電池は小型大容量、繰り返し使用が可能などの利点から、モバイルバッテリーやワイヤレスイヤホン・スピーカー等、身の回りの様々な商品に搭載されています。しかし便利な一方で電池の発煙・発火事故も発生しています。

★製造・販売元や型式が明示されていない商品や仕様が不明確な商品を購入するのは避けましょう。充電器やモバイルバッテリーはPSEマークの表示を確認しましょう。

★充電の際は適切な充電器を使用し、もし充電端子が加熱したり異臭がした際は直ちに使用を中止しましょう。

★落下などで電池に衝撃が加わると、発煙・発火を伴う事故につながる可能性も考えられます。持ち運びや保管の際は取扱いに注意し、電池に膨張がみられたら使用を控えましょう。

★廃棄する際は、必ず自治体の分別ルールに従いましょう。取り外し可能なバッテリー等は販売店でリサイクル回収をしてくれる場合もあります。

<国民生活センター 見守り新鮮情報 第514号より>

《消費生活センター 今後のイベント予定》

「悪質なネットトラブルから身を守ろう～事例とその解決法～」

12/8(月) 午前10時～正午 町田市民フォーラム4階 第2学習室

「衣服選びのポイントと上手なお手入れ」

12/10(水) 午前10時～正午 町田市民フォーラム3階 事業準備室

【お申込み先】 町田市イベントダイヤル 042-724-5656

【お問合せ先】 町田市消費生活センター 042-725-8805